

令和8年度 伊勢地域公共交通会議

第2回 議事要旨

■開催概要

日時：令和8年8月27日（木） 14時00分～15時45分

場所：伊勢市役所東館5階5-3会議室

出席者：全21名

学識経験者2名（名古屋大学大学院 環境学研究科教授、
近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科教授） オンライン出席

一般市民 3名

一般乗合旅客自動車運送事業者

2名（三重交通株式会社 企画部長、随行者1名）

一般旅客自動車運送事業者

2名（三重県タクシー協会 事務局長、伊勢志摩支部長）

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三交伊勢志摩交通労働組合 書記長）

鉄道事業者1名（近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局

4名（主席運輸企画専門官、随行者3名）

三重県伊勢警察署

1名（交通第一課長）

三重県 1名（地域連携・交通部 交通政策課 主査）

伊勢市 1名（伊勢市長）

事務局 7名（都市整備部交通政策課）

傍聴者：2名

■議事内容

■ 議案第1号 土路今一色線地域旅客運送サービス継続事業開始にあたっての周知について

事務局より、議案第1号の「土路今一色線地域旅客運送サービス継続事業開始にあたっての周知について」を説明した。

（近畿大学高専 中平教授）

- ・ プライスカットのバス停の位置について、もう少しわかりやすいようにできないか。

（伊勢市 鈴木市長）

- ・ バス停に協力してもらっているコインランドリーが図に見えていない。

（市民代表 前田氏）

- ・ 読み手がよく知っている体でチラシを作ってしまうがちになる。地元の方がよく知っている情報を入れる等すべき。
- ・ 便利になることがわかるようなキャッチーな方法を考えるとよい。
- ・ ただし、あまりに何でも情報をいれてしまっても見づらくなるのが難しい。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 路線維持が本当に危なかった状況にあり、サービス継続事業によって存続させ、元々乗っていた人数が戻らないと路線がなくなってしまうという旨を吹き出し等でチラシに記載する。
- プライスカット乗り入れにより、新たに乗り継げるようになった箇所（NEW! など）を強調する。
- チラシの中心に系統図をいれてはどうか。
- プライスカットからの動線やバス停の位置をコインランドリーの前と明記する。写真を使うとよい。待合環境が整っていることも掲載するのがよい。

⇒（事務局）ご意見をチラシの修正に反映していきたい。

(中部運輸局三重運輸支局 森主席運輸企画専門官)

- このサービス継続事業は令和 11 年 3 月に終了する。この先 1 年程度で今後の在り方についてを考えていかねばならない。

(伊勢市 鈴木市長)

- 地域の方がバスに乗ってもらえるよう、地域の方を巻き込んだ取り組みが必要である。

(市民代表 西田氏)

- チラシの文字の大きさはこれで問題ない。

議案第 1 号 土路今一色線地域旅客運送サービス継続事業にあたっての周知については、指摘事項等の内容を修正追加・検討することで承認をいただいた。

■ 議案第 2 号 沼木地区自主運行バスの今後の運営体制について

事務局より、議案第 2 号の「沼木地区自主運行バスの今後の運営体制について」を説明した。

(中部運輸局三重運輸支局 森主席運輸企画専門官)

- 沼木まちづくり協議会やライドシェア事業を行う伊勢志摩観光コンベンション機構にも会議の構成員に入ってもらってはどうか。

⇒（事務局）確認をとり、可能であれば構成員になっていただく。

(伊勢市 鈴木市長)

- 会議の構成員として、土路今一色線の関係など、沿線住民の代表の方に入っていただくのはどうか。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 沿線地域の方には、オブザーバーで入っていただくのがよいのではないかと。

⇒（事務局）委員の構成について、確認して検討する。

(近畿大学高等工業専門学校 中平教授)

- 公共ライドシェアについては、あれもやりたい、これもやりたいとなると意見がまとまらない。予算の範囲もあるので、あらかじめルールや計画を決めておいたほうが良い。

議案第 2 号 沼木地区自主運行バスの今後の運営体制については、指摘事項等の内容を修正追加・検討することで承認をいただいた。

■ 議案第 3 号 バス待ち環境の改善について

事務局より、議案第 3 号の「バス待ち環境の改善について」を説明した。

(三重交通株式会社 小瀬古部長)

- 直通で行きたいという要望が多い中、ハブ&スポークのハブが魅力的なことが重要。乗換ではなくて目的地になり得る場所にできるとよい。
- 技術的なバスロケ案内は可能なので、三重交通としても協力していきたい。

(市民代表 前田氏)

- 路線バス、おかげバスどちらもなのか。

⇒ (事務局) どちらもやっていきたい。

(随員 中部運輸局 伊藤部長)

- 多言語表記を導入することで、観光庁の補助金を活用できる可能性がある。外国人の利用促進として行うのも良い。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- バスまちばでの周知が大事になるので、バス停に名前がついた公共施設は全て洗い出しリスト化しておくべき。
- QR ではなくモニターを設置した方が効果的なのは間違いなく、可能なところはモニターを設置したほうが良い。
- コンビニであれば、既に設置されているサイネージにバスロケを映すことも考えられる。
- バスまちばとバス停が遠すぎてはいけない。

(近畿大学高等工業専門学校 中平教授)

- バスまちばのデジタルサイネージで広告を出すのはどうか。
- デジタルサイネージの通信費や設置を無償で行ってくれる企業もあるので、参考にしてほしい。

(市民代表 奥村氏)

- バス停ベンチ協賛募集の掲載期間は 3 年または 6 年とあるが、掲載料のところには契約期間 5 年となっている。また、5 年契約なら年額の記載はいらないのではないか。

⇒ (事務局) 3 年から 6 年という記載は誤りになる。年額の記載についても削除する。

議案第 3 号の「バス待ち環境の改善について」は、一部修正し、説明内容と指摘事項を実施するという方向で、内容を承認いただいた。

■ 議案第 4 号 地域内観光フィーダー補助金について

事務局より、議案第 4 号の「地域内観光フィーダー補助金について」を説明した。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 観光フィーダーであるため、観光客向けの切符等は使えた方が良い。
- 観光案内等に記載するのも良い。

⇒ (事務局) 検討することとする。

議案第 4 号の「地域内観光フィーダー補助金について」は、指摘事項について取り組んでいくという方向で、内容を承認いただいた。

■ 議案第 5 号 自動運転バス実証期間中のバス停留所の設置について

事務局より、議案第 5 号の自動運転バス実証期間中のバス停留所の設置についてを説明した。

(伊勢警察署 青木課長)

- バス停の使用には道路管理者や交通事業者等の合意が必要となる。
- 内宮前だけでよいのか。五十鈴川駅は問題ないか。

(近鉄宇治山田駅 山本駅長)

- 三重交通と契約の範囲内で、三重交通が OK であれば問題ない。

(伊勢市 鈴木市長)

- タクシー事業者として懸念点はあるか。

(三重県タクシー協会伊勢志摩支部 小崎支部長)

- 渋滞と無電柱化工事規制による影響が懸念。平日の工事期間も気になる。

(市民代表 前田氏)

- AI 学習走行が始まる 11 月 2 日の時点では無電柱化工事が終了しているという認識でよいのか。

⇒ (事務局) 11 月～2 月にかけて無電柱化工事が実施され、その間は神宮会館前から内宮前バス停の手前で 1/2 車線減少の交通規制が実施される (12 月マラソン後～1 月は休工予定)。

(市民代表 前田氏)

- 工事規制による迂回渋滞だけでなく、駐車場の混雑に起因する旅行車両の転回 (A→B 駐車場など) や、違法駐車等の車道に駐停車する車両に注意が必要である。
- 町内会での周知も必要である。

⇒ (事務局) 周知等を行っていききたい。

議案第 5 号の 伊勢市「自動運転バス実証期間中のバス停留所の設置については、必要事項を確認することとし、内容の承認をいただいた。

■ 報告第 1 号 伊勢市「公共ライドシェア」実証事業について

事務局より、報告第 1 号の「伊勢市「公共ライドシェア」実証事業について」を説明した。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 地域利用と観光利用の割合はどうか。

⇒ (事務局) ドライバーへの聞き取りをお願いしている。昨年度は同程度の割合だった。

(伊勢市 鈴木市長)

- タクシーの状況はどうか。

(三重県タクシー協会伊勢志摩支部 小崎支部長)

- G0 アプリの利用が増えてきており、夜間だけでなく昼間も G0 アプリの利用が多い。
- キャッシュレス決済の利用は半分程度である。

■ 報告第2号 神宮 125 社めぐり帖の作成・公開について

事務局より、報告第2号の「神宮 125 社めぐり帖の作成・公開について」を説明した。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 市外の箇所については、各自治体と協力・連携するのか。

⇒(事務局) 現時点では市外の箇所はないが、今後連携していきたい。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- バス以外にも、自転車等といった二次交通のモードを広く活用できるようにすることで、シェアサイクルやサイクルトレインといった施策の定着に結び付けられるとよい。

(伊勢市 鈴木市長)

- 外国人向けの英語表記を追加することで観光庁の補助を受けることはできないのか。

⇒(事務局) 検討することとしたい。

以上